

## 施策評価調書（基本目標 1）

基本目標	1 より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します。
	主要施策 (1)～(3)
施策の目的	安定給水の確保や施設整備の推進を図るとともに、水質管理の充実に努め、安全でより良質なおいしい水道水を提供することを目指します。 また、環境保全に十分配慮した水づくりに努めていきます。

評価結果の概要	<p>基本目標1においては、3つの主要施策の下に15の重点推進事業（細目を含め21事業）を位置付けています。これらの重点推進事業について、担当課の自己評価をもとに内部評価を行った結果、</p> <p>(1)「5か年間の取組」に係る評価は、全事業について「a」評価（上位施策・目標へ「適合」している）としました。</p> <p>(2)「達成状況」に係る評価は、18事業について「a」又は「b」評価（目標を「達成」又は「概ね達成」している）とし、3事業について「c」評価（「達成していないが進展」している）としました。</p> <p>(3)「成果（効果）」に係る評価は、19事業について「a」又は「b」評価（目標とした「成果が出ている」又は「概ね成果が出ている」）とし、2事業について「c」評価（「成果が小さい」）としました。</p> <p>(4)「今後の進め方」に係る評価は、10事業について「a」評価（「計画どおり継続（維持）」）とし、1事業について「b」評価（「事業を拡大し継続」）とし、2事業について「c」評価（「事業を縮小し継続」）とし、8事業について「e」評価（「その他」）としました。</p>
---------	---

主要施策ごとの5か年間の取組と内部評価結果				
(1) 安定給水の確保 (11事業)				
水道水の安定した給水ができるよう、水源と浄給水場等施設の供給能力を確保します。				
事業の区分 (5か年の主な取組項目)	「5か年間の取組」	「達成状況」	「成果」	「今後の進め方」
(1) 水需要見直し	a	a	a	a
(2) 千葉県上下流交流事業	a	a	a	a
(3) ちば野菊の里浄水場（(仮称)江戸川浄水場）建設工事	a	a	a	e
(4) (仮称)房総道水路系浄水場整備事業	a	c	c	e
(5) 船橋給水場リニューアル工事	a	c	c	e
(6) 栗山浄水場老朽化更新工事	a	c	b	e
(7) 浄水場等設備更新工事	a	b	b	a
(8) ハヶ崎～五香六実線布設工事	a	a	b	a
(9) 鋳鉄管更新工事	a	a	a	b
(10) 配水区域の細分化	a	a	a	e
(11) 水運用センターの設置	a	a	b	e
(2) 安全で良質な水の供給 (1事業 6細目事業)				
おいしい水道水を安心して使えるよう、「おいしい水づくり計画」(平成19年3月策定)に基づいて事業を推進します。				
事業の区分 (5か年の主な取組項目)	「5か年間の取組」	「達成状況」	「成果」	「今後の進め方」
(12-1) おいしい水づくり計画の推進	a	b	b	a
(12-2) 残留塩素の低減化	a	a	a	a
(12-3) 管路の維持管理強化	a	b	a	a
(12-4) 貯水槽水道の適正管理と直結給水の促進	a	b	a	c
(12-5-1) 高度浄水処理の導入（施設整備）	a	a	a	a
(12-5-2) 高度浄水処理の導入（調査研究）	a	a	a	e
(12-6) 鉛給水管の更新	a	b	b	c
(3) 環境保全対策の推進 (3事業)				
環境に配慮した水づくりを目指し、クリーンエネルギーや省エネルギー機器の導入、浄水場発生土等の再資源化に取り組みます。				
事業の区分 (5か年の主な取組項目)	「5か年間の取組」	「達成状況」	「成果」	「今後の進め方」
(13) 太陽光・マイクロ発電設備工事	a	a	a	e
(14) 省エネルギーの推進工事	a	a	a	a
(15) 再資源の推進	a	b	b	a

<p>主な重点推進事業 の取組結果 (詳細)</p>	<p>(1) 9 鋳鉄管更新工事 5か年間の取組状況、自己評価及び内部評価については別添「施策評価調書(様式-1)」による。</p> <p>(2) 12 おいしい水づくり計画の推進 5か年間の取組状況、自己評価及び内部評価については別添「施策評価調書(様式-1)」による。</p>
------------------------------------	--

<p>外部評価委員会の 総評</p>		<p>「5か年間の取組、達成状況、 成果」における評価の妥当性</p> <p>A：妥当である B：概ね妥当である C：不十分である</p> <hr/> <p>「今後の進め方」における評 価の妥当性</p> <p>A：妥当である B：概ね妥当である C：不十分である</p>
<p>外部評価委員会で の主な意見</p>		

< 基本目標 1 >

重点推進事業評価調書  
( 詳細説明抽出事業 )

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	9
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課 給水課
事業（施策）名	鋳鉄管更新工事		
事業概要	概ね40年を経過した管（経年管）のうち、赤濁水の発生や管体腐食による漏水がみられる小中口径管について、優先的に更新（布設替工事）します。また、鉛給水管の更新工事や維持管理業務等を通じて配水管の腐食情報等を収集し、これを反映した更新計画を策定します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） ・更新優先度の高い小中口径管路について布設替工事を実施しました。 ・更新計画を策定するための基礎資料となる腐食情報等の収集を進めました。 ・更新計画（基本計画＋実施計画＋実施設計）を策定しました。 （鋳鉄管更新・・・5か年の事業費（計画）：11,555,806千円、 5か年の事業費（実績）：14,235,232千円） （情報収集入力・・・5か年の事業費（計画）：44,778千円、 5か年の事業費（実績）：44,342千円）		内部評価		
			a：適合している b：十分とはいえない		
				前年度評価	a
達 成 状 況	達成指標	鋳鉄管更新延長 腐食情報等の収集 送・配水管更新事業の将来的な更新計画（基本計画＋実施計画＋実施設計）の策定	内部評価		
	達成目標	85.0km（5か年累計） 9,000件（5か年累計） 更新計画の策定（平成22年度）	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない		
	達成実績	94.9km（5か年累計） 9,142件（5か年累計） 更新計画（基本計画＋実施計画＋実施設計）を策定（平成22年度）			
	（評価結果の説明・分析） 鋳鉄管更新延長は、目標を上回る布設替工事を実施しました。 時間の経過により避けられない腐食の正確な実態把握に努めました。 基本計画を平成21年度までに策定し、22年度に実施計画を策定しました。また、計画されている実施設計を行いました。				前年度評価
成 果	成果指標	管路の事故割合（管路100kmあたりの赤濁水又は漏水等の発生件数） 腐食情報の更新計画への反映状況	内部評価		
	成果目標	1.62以下（平成20～22年度の平均） 腐食情報を反映した更新計画（基本計画＋実施計画＋実施設計）の策定	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない		
	成果実績	1.58（平成20～22年度の平均） 更新計画に腐食情報を反映			
	（評価結果の説明・分析） 管路の事故割合については、更新の効果により目標以下に抑えられました。 更新計画については、平成21年度に策定した基本計画をもとに、管路情報を集積した地図情報であるマッピングシステムの改善を行い、22年度の実施計画の策定に反映させました。				前年度評価
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 経年管対策は、「千葉県水道局中期経営計画2011」においても大きな取組課題の一つに位置付けられているものであり、今回の震災の教訓も踏まえて引き続き更新優先度の高い管路の布設替えを着実に進めます。		内部評価		
			a：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他		
				前年度評価	a
内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 震災の教訓を踏まえ、計画的かつ速やかに事業を進めること （事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める				

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します。	整理番号	12 - 1
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	計画課
事業（施策）名	おいしい水づくり計画の推進		
事業概要	「においの少ないおいしい水」を求めらるお客様要望に答えるため、水道局では、国の水質基準より高いレベルの水質目標を設定しています。 このため、水源から蛇口までの技術的な取組やソフト事業の施策について、お客様と連携・協働して総合的に推進する「おいしい水づくり計画（計画期間：平成27年度まで）」を策定し、おいしい水づくりを推進します。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） おいしい水づくり計画を平成19年3月に策定し、計画に基づく各種取組を推進しました。 技術的取組 ・残留塩素の低減化 ・管路の維持管理強化 ・貯水槽水道の適正管理と直結給水の推進 ・高度浄水処理 その他 ソフト事業 ・各種PR事業 ・ウォーターメイト制度等の運営 その他 （当初予算額：1,204,355千円、決算（見込）額：1,025,295千円）		内部評価	
			a : 適合している b : 十分とはいえない 前年度評価 a	
達成状況	達成指標	当局8項目の水質目標のうち、未達成の「末端蛇口残留塩素濃度」 （浄給水場系統ごとに測定した蛇口60箇所の年間平均値） ソフト事業の実施状況	内部評価	
	達成目標	0.60mg/ℓ（平成22年度までに） おいしい水づくり計画に予定したソフト事業の実施	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない 前年度評価 b	
	達成実績	0.68mg/ℓ（平成22年度） おいしい水づくり計画に予定したソフト事業を実施		
	（評価結果の説明・分析） 技術的な取組（個別の事業は12-2～12-6参照）を計画的に実施しましたが、平成22年度の年間平均値は0.68mg/ℓに止まりました。なお、23年3月には月間値で0.60mg/ℓを達成しました。 PRグッズの作成、オフィシャルサイトの逐次更新、ウォーターメイトによる蛇口水質のモニタリング、おいしい水づくり推進懇話会での意見交換など予定していたソフト事業を積極的に実施しました。			
成果	成果指標	インターネットモニターへのアンケート調査 （水道水のおいしさ：「おいしい+ややおいしい」の回答割合）	内部評価	
	成果目標	40%（平成22年度）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない 前年度評価 b	
	成果実績	36.1%（平成22年度）		
	（評価結果の説明・分析） アンケート調査結果は、水道水は「おいしい」+「ややおいしい」の回答割合が36.1%（6.0%+30.1%）となっており目標には達しませんでした。18年度の17.4%（1.1%+16.3%）と比較して向上しており、おいしい水づくりへの取組の成果が表れていると考えられます。			
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） おいしい水を求めるお客様の満足度をさらに高めるとともに、安全で良質な水を安定的に供給するため、引き続き、「おいしい水づくり計画」事業の総合的な推進に取り組んでいきます。		内部評価	
			a : 計画どおり継続 b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他 前年度評価 a	

内部評価機関（政策調整会議）における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

整理番号 12 - 1 おいしい水づくり計画の推進

平成 22 年度 インターネットモニターアンケートの実施内容（モニター委嘱者数：600人）

	実施時期	調査内容
第 1 回	平成 22 年 7 月	安全でおいしい水（回答者数：448 名）
第 2 回	平成 22 年 8 月	ホームページ・ペットボトル水・首都圏水道水キャンペーン ポスター・安全でおいしい水（回答者数：455 名）
第 3 回	平成 22 年 11 月	接客対応の満足度・水道局のイメージ・安全でおいしい水（回 答者数：469 名）
第 4 回	平成 23 年 2 月	安全でおいしい水・県水だより・水道水の満足度（回答者数： 456 名）

インターネットモニターアンケート

水道水のおいしさ	H22 年度第 1 回 ( H22.7 )	H18 年度第 1 回 (H18.6)	差 ( )
おいしい	6.0%	1.1%	4.9 ポイント
ややおいしい	30.1%	16.3%	13.8 ポイント
ややおいしくない	28.6%	27.0%	1.6 ポイント
おいしくない	17.0%	37.7%	20.7 ポイント
どちらともいえない	18.3%	17.7%	0.6 ポイント

「おいしい水」に関する水質目標（平成27年度の最終目標）

観 点	目標項目	国が定める 水質基準等	県水道局の 水質目標	目標値の目安	
におい 及び味	残留塩素	1.0mg/L 以下 0.1mg/L 以上	0.4mg/L 以下 0.1mg/L 以上	ほとんど人が 塩素臭を感じない	
	臭気強度 (TON)	3 以下	1	異臭味を感じない	
	か び 臭	2-メチルイソボルネオール	10ng/L 以下	1ng/L 以下	かび臭を感じない
		ジェオスミン			
	有機物 (TOC)	5mg/L 以下	1.0mg/L 以下	不快な味を感じない	
外 観	色 度	5 度以下	1 度以下	色や濁りがわからない	
	濁 度	2 度以下	0.1 度以下		
安心	総トリハロメタン	0.1mg/L 以下	0.03mg/L 以下	安心して飲める	
(今後、目標設定すべき項目)					
におい	トリクロラミン		検査体制が整い次第 目標値を設定	カルキ臭を 感じない値以下	

## 平成22年度 給水栓残留塩素調査(60地点)

系 統	場 所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
柏井浄水場 (海浜NT系) (第二誉田系)	千葉市花見川区	0.7	0.8	0.7	0.9	0.8	0.9	0.8	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8
	千葉市若葉区	0.6	0.7	0.7	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.7
	千葉市稲毛区	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.7
	千葉市中央区	0.7	0.8	0.7	1.0	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.5	0.5	0.7
	千葉市若葉区	0.6	0.8	0.5	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7
園生給水場 (市内系)	千葉市稲毛区	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7
	千葉市中央区	0.6	0.8	0.7	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.8	0.7
誉田給水場 (中区系)	千葉市中央区	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7
	千葉市若葉区	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7
	千葉市中央区	0.7	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7
北総浄水場 (千葉NT系)	印西市	0.6	0.6	0.7	0.8	1.0	1.1	0.8	0.7	0.5	0.4	0.5	0.6	0.7
成田給水場 (配水塔系)	成田市	0.7	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.5	0.7
北船橋給水場 (高区系)	船橋市	0.5	0.7	0.9	0.9	0.8	0.9	0.7	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7
	船橋市	0.6	0.8	1.0	0.9	0.7	0.9	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.8
	船橋市	0.6	0.8	1.0	0.9	0.9	1.0	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.8
	習志野市	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.4	0.6	0.7
北習志野分場 (高架水槽系)	船橋市	0.6	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
幕張給水場 (花見川東系) (花見川西系) (東関道北系)	千葉市美浜区	0.8	0.8	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	0.8
	千葉市美浜区	0.8	0.9	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.8
	千葉市美浜区	0.7	0.8	1.1	1.0	0.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.7	0.5	0.5	0.8
	習志野市	0.8	0.8	0.9	1.1	0.9	1.0	1.0	0.9	0.6	0.6	0.7	0.6	0.8
	習志野市	0.7	0.8	0.9	0.9	0.7	0.9	0.9	0.7	0.4	0.5	0.6	0.6	0.7
	船橋市	0.5	0.8	0.8	0.9	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.7
	習志野市	0.8	0.9	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.7	0.6	0.7	0.4	0.4	0.8
	千葉市美浜区	0.7	0.9	1.2	1.0	0.8	0.9	1.0	0.7	0.6	0.6	0.6	-	0.8
妙典給水場 (葛南系)	浦安市	0.6	0.7	0.8	0.9	0.7	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	0.5	-	0.7
	浦安市	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	0.5	0.6
福増浄水場 (高区系) (低区系) (直配系)	市原市	0.7	0.7	0.7	0.9	0.8	0.8	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.6
	市原市	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5
	千葉市中央区	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5
	市原市	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6
	市原市	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
	市原市	0.6	0.7	0.7	0.9	1.0	0.8	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7
	市原市	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7
	千葉市中央区	0.8	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.7
千葉分場 (高区系)	千葉市中央区	0.5	0.6	0.8	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6
(低区系)	千葉市中央区	0.6	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.4	0.5	0.5	0.5	0.6
市原分場 (配水塔系)	市原市	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5
姉崎 (高区系) (中区系) (低区系)	市原市	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6
	市原市	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
	市原市	0.6	0.6	0.6	0.8	0.9	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6
誉田 (高区系) (中区系) (低区系)	千葉市緑区	0.6	0.7	0.7	0.4	0.8	0.7	0.9	0.7	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7
	市原市	0.6	0.7	0.8	0.7	0.9	0.8	1.0	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8
	千葉市中央区	0.6	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7
	千葉市中央区	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.8	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7
	市原市	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7
ちば野菊の里 (低区系) (高区系)	松戸市	0.7	0.6	0.6	0.9	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6
	松戸市	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.8	0.6	0.8
	松戸市	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.5	0.8
	松戸市	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.7	0.8	0.5	0.7
栗山 (配水塔系)	市川市	0.8	0.7	0.6	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.6
	市川市	0.6	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7
船橋 (高区系) (低区系)	市川市	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.5	0.6	0.6	0.5	0.7
	船橋市	0.5	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6
	船橋市	0.4	0.6	0.6	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.5	0.5	0.5	0.4	0.6
	船橋市	0.5	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6
	船橋市	0.4	0.4	0.4	0.4	0.8	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4
沼南 (高区系)	市川市	0.9	0.8	0.9	1.0	1.0	0.9	1.0	0.7	0.5	0.5	0.7	0.5	0.8
松戸 (市内系)	市川市	0.8	0.6	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.7	0.5	0.7
	松戸市	0.7	0.9	0.8	0.9	0.7	0.7	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7
	平均	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.68

< 基本目標 1 >

重点推進事業評価調書  
(その他の事業)

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	1
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課
事業（施策）名	水需要見通し		
事業概要	将来的な水使用や社会経済動向を調査するとともに、国勢調査結果及び国立社会保障人口問題研究所の将来人口推計をもとに水需要推計を精査し、県水道局としての長期水需要見通しを策定します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 水需要調査委託を実施し、今後の水使用や社会経済動向を調査するとともに、平成17年度に実施された国勢調査結果及び国立社会保障人口問題研究所の将来人口推計を基に水需要推計を精査し、県水道局の今後の長期水需要見通しを策定しました。  （5か年の事業費（計画）：25,000千円、5か年の事業費（実績）：5,460千円）		内部評価
			a：適合している b：十分とはいえない  前年度評価 -
達 成 状 況	達成指標	長期水需要見通しの策定状況	内部評価
	達成目標	長期水需要見通しの策定	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない  前年度評価 -
	達成実績	長期水需要見通しを策定	
	（評価結果の説明・分析） 平成19年度に作成した素案について精査し、20年4月に長期水需要見通しを策定するとともに、千葉県ほか関係機関に通知しました。		
成果指標	施設整備計画への反映状況 配水計画への反映状況	内部評価	
成 果	成果目標	施設整備計画への反映 配水計画への反映	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない  前年度評価 -
	成果実績	施設整備計画に反映可能なデータを取得 配水計画に反映	
	（評価結果の説明・分析） 施設整備計画の策定に向け、必要となる水需要見通しのデータを取得しました。 また、安定的及び経済的な水運用を図るために毎年策定している配水計画に、平成21年度以降、水需要見通しを反映させることで、給水の安定化並びに効率化につながりました。		
	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 長期水需要の見通しと需要実績を比較したところ、過去3年間（平成20年度から22年度）の平均97%と概ね計画どおりと考えられます。長期水需要見通しは、今後の経営収支や施設整備の方向性を見定める上で重要なファクターであるため、実績の推移を踏まえながら、本事業のフォローアップを行っていきます。 また、平成22年度に国勢調査が行われたことから、新たな長期水需要見通しの策定について検討します。  （平成20年度事業完了）		内部評価
今後の進め方			a：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他  前年度評価 -

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	2
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課
事業（施策）名	千葉県上下流交流事業（旧 ダム建設支援事業）		
事業概要	水源の安定化を図るため、千葉県水道局も参画している湯西川ダム・ハッ場ダムの早期完成に資するよう、“上流水源地域住民に感謝の気持ちを示すとともに、水を通じて上流水源地域住民と下流千葉県民との相互理解を深める”ことを目的とした千葉県上下流交流事業（事務局：千葉県総合企画部水政課）を実施、推進します。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 以下の行事を各年度実施しました。 ・「森と湖児童交流」（湯西川ダム） 千葉県の小学生、保護者（20組40名）と地元小学生が交流する。 ・「水の大使」（ハッ場ダム） 千葉県の小学生、保護者（20組40名）と水没地区の地元小学生が交流する。 ・「水源地の紹介」（ハッ場ダム、湯西川ダム） 千葉市民産業まつり行事でダム事業PRと水源地の紹介等を行う。 ・「シクラメン配布事業」（湯西川ダム） 水源地へ県産のシクラメンを贈り、感謝と友好の気持ちを伝える。 ・「温泉直送」（湯西川ダム） シクラメンのお礼として水源地の温泉の湯を県内の高齢者福祉施設等に贈る。 （5か年の事業費（計画）：5,600千円、5か年の事業費（実績）：5,600千円）		内部評価	
			a : 適合している b : 十分とはいえない	前年度評価 a
達成状況	達成指標	事業の実施数	内部評価	
	達成目標	25回（5回/年）	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない	
	達成実績	25回（5か年累計）	前年度評価 a	
	（評価結果の説明・分析） 交流事業を予定どおり実施しました。また、参加者を対象にしたアンケート結果において、水没地区に対する深謝の気持ちや水の大切さ等の意見が多く寄せられました。			
成果	成果指標	安定水源の確保	内部評価	
	成果目標	参画する2ダムの完成による水源の安定化	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
	成果実績	湯西川ダム 77.4%（平成22年度末事業費ベース） ハッ場ダム 77.4%（平成22年度末事業費ベース）	前年度評価 a	
	（評価結果の説明・分析） 参画する2ダムのうち、ハッ場ダムについては国において有識者による事業の再検討が行われているところですが、本事業は上下流住民の相互理解を深める取組であり、ダム事業の進展による安定給水の確保に貢献しているものと考えます。			
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性） 引き続き、本事業を実施して上下流住民の相互理解を深めるを通じ、ダムの早期完成を支援します。		内部評価	
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他	
			前年度評価 a	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める	
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める	

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	3
主要施策	安定給水の確保	担当課	浄水課
事業（施策）名	ちば野菊の里浄水場（(仮称)江戸川浄水場）建設工事		
事業概要	老朽化の著しい古ヶ崎浄水場の代替施設として、高度浄水処理施設や給水拠点機能を備えた日量6万立方メートルの浄水処理能力を持つ新浄水場を建設します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 新浄水場を平成19年度に稼働させ、残工事も含め21年度に全ての工事が完了しました。  （5か年の事業費（計画）：9,913,139千円、5か年の事業費（実績）：8,291,049千円）		内部評価	
			a：適合している b：十分とはいえない  前年度評価 -	
達 成 状 況	達成指標	事業の進捗率	内部評価	
	達成目標	100%	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない  前年度評価 -	
	達成実績	100%		
	（評価結果の説明・分析） 新浄水場は平成19年10月1日から稼働し、残工事も21年度に完了しました。			
成 果	成果指標	浄水施設更新率（（全浄水施設能力 - 法定耐用年数を超えた浄水施設能力） / 全浄水施設能力） 自家用発電設備容量率（自家発電設備容量 / （契約電力の合計 + 自家発電設備容量））	内部評価	
	成果目標	100% 39.9%	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない  前年度評価 -	
	成果実績	100% 42.6%		
	（評価結果の説明・分析） 本浄水場の稼働により、当局の浄水施設更新率は100%、浄・給水場等における自家用発電（非常用バックアップ用）設備容量率は42.6%となり、安定給水の確保に貢献しました。			
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 本事業の完了により、安定給水が確保されました。 他の浄給水場についても適切に更新し、安定給水の確保に努めていきます。  （平成21年度事業完了）		内部評価	
			a：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他  前年度評価 -	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	4
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課
事業（施策）名	（仮称）房総導水路系浄水場整備事業		
事業概要	安定水源の活用や水源の多水系化のため、房総導水路系を水源とする浄水場の建設に関する基本計画等を検討します。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 房総導水路系水源を活用した施設整備の方向性について、長期水需要見通しや県内水道のあり方の方向性等を踏まえ、検討を行いました。		内部評価		
	（5か年の事業費（計画）：161,000千円、5か年の事業費（実績）： 0千円）		<input type="checkbox"/> a：適合している <input type="checkbox"/> b：十分とはいえない	前年度評価	a
達成状況	達成指標	施設整備に係る基礎調査及び基本計画の検討状況	内部評価		
	達成目標	房総導水路系水源を活用した浄水場等施設整備の方向性の検討	a：達成している		
	達成実績	水源の活用方策について新たな方向性を検討	b：概ね達成している		
	（評価結果の説明・分析） 房総導水路系水源を活用した新たな浄水場の建設については、県内水道の統合・広域化の動向を踏まえながら引き続き検討することとし、当面は既存の福増浄水場のバックアップ用として水源の活用を図るなどの方策について検討しました。		<input type="checkbox"/> c：達成していないが進展している <input type="checkbox"/> d：進展していない		
前年度評価		c			
成果	成果指標	基本計画の策定状況	内部評価		
	成果目標	浄水場等施設整備の方向性を反映した基本計画の検討	a：成果が出ている		
	成果実績	水源の活用方策の方向性を反映した技術的な検討に着手	b：概ね成果が出ている		
	（評価結果の説明・分析） 福増浄水場のバックアップ用水源として当面の活用を図るなどの方策の検討にあわせ、水源から同浄水場までの導水管の布設ルートなどについて、技術的な検討に着手しました。		<input type="checkbox"/> c：成果が小さい <input type="checkbox"/> d：成果が出ていない		
前年度評価		c			
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性） 房総導水路系水源を活用した新浄水場の建設構想は、未利用水源の活用や水源の多水系化を図り一層の安定給水に資するものである一方、多額の投資が見込まれるため、経済性や効率性を十分考慮した上で具体化していく必要があります。 今後は、引き続き県内水道の統合・広域化における動向並びに進捗状況などを踏まえた上で同水源の活用方策について検討していきます。		内部評価		
			<input type="checkbox"/> a：計画どおり継続（維持） <input type="checkbox"/> b：事業を拡大し継続 <input type="checkbox"/> c：事業を縮小し継続 <input type="checkbox"/> d：事業休止または廃止 <input type="checkbox"/> e：その他		
前年度評価		e			

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

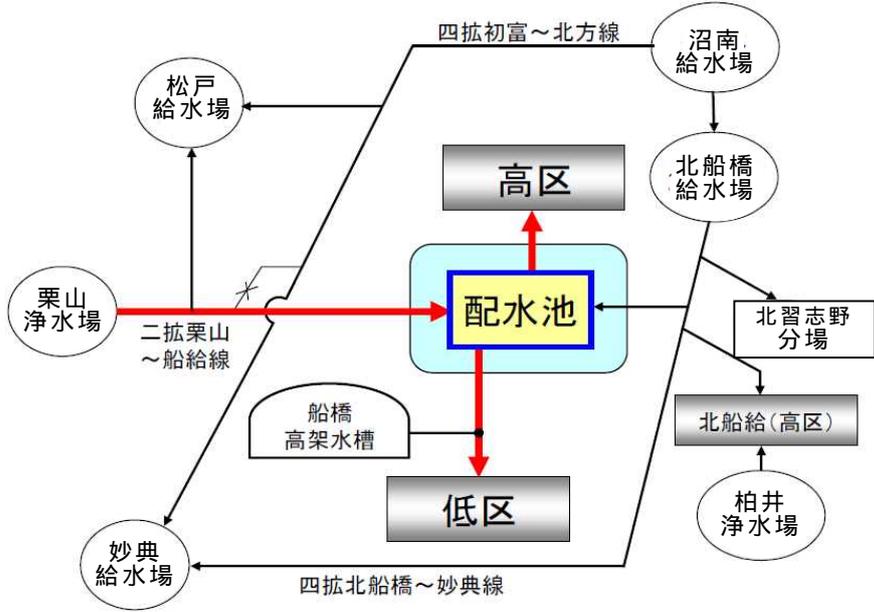
基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	5
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課
事業（施策）名	船橋給水場リニューアル工事		
事業概要	老朽化が進行している船橋給水場について、老朽度診断調査（平成16、17年度実施）の結果をもとにリニューアル方策の計画を策定するとともに、これに基づく工事を実施します。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 給水場の将来的な施設の形態について再検討を行い、最適な工法や管理手法を確定しました。		内部評価	
	（5か年の事業費（計画）：1,470,000千円、5か年の事業費（実績）：0千円）		<input type="checkbox"/> a：適合している <input type="checkbox"/> b：十分とはいえない	前年度評価
達成状況	達成指標	基本計画及び実施計画の検討状況	内部評価	
	達成目標	基本計画の策定	<input type="checkbox"/> a：達成している <input type="checkbox"/> b：概ね達成している <input type="checkbox"/> c：達成していないが進展している <input type="checkbox"/> d：進展していない	前年度評価
	達成実績	施設更新の方針を決定		
	（評価結果の説明・分析） 船橋給水場の将来的な形態について、 現有施設形態（配水池貯留・加圧送水）を維持する更新方式 低区高架水槽/高区直接配水方式の併用 高区・低区とも直接配水方式 の3タイプを検討し、現有施設形態を維持する更新方式を採用する施設更新の方針を平成21年度に決定しました。			
前年度評価	c			
成果	成果指標	配水池耐震施設率（耐震化配水池数/全配水池数） 実施計画の策定状況	内部評価	
	成果目標	88%（平成22年度末） 実施計画の策定	<input type="checkbox"/> a：成果が出ている <input type="checkbox"/> b：概ね成果が出ている <input type="checkbox"/> c：成果が小さい <input type="checkbox"/> d：成果が出ていない	前年度評価
	成果実績	91%（平成22年度末） 安定給水の確保の視点から最適な更新形態を選択		
	（評価結果の説明・分析） 船橋給水場の望ましい施設形態について再検討を行い、現有形態を維持することを基本とする更新の方針を決定しました。これにより、施設のリニューアル計画が進展し安定給水の一層の確保が図られる見通しとなりました。			
前年度評価	c			
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性） 現有施設形態を維持する更新方式を採用する施設更新の方針が決定したことを受け、実施計画を策定し、施設の耐震化も併せた形で施設更新を実施していきます。		内部評価	
			<input type="checkbox"/> a：計画どおり継続（維持） <input type="checkbox"/> b：事業を拡大し継続 <input type="checkbox"/> c：事業を縮小し継続 <input type="checkbox"/> d：事業休止または廃止 <input type="checkbox"/> e：その他	前年度評価
			e	

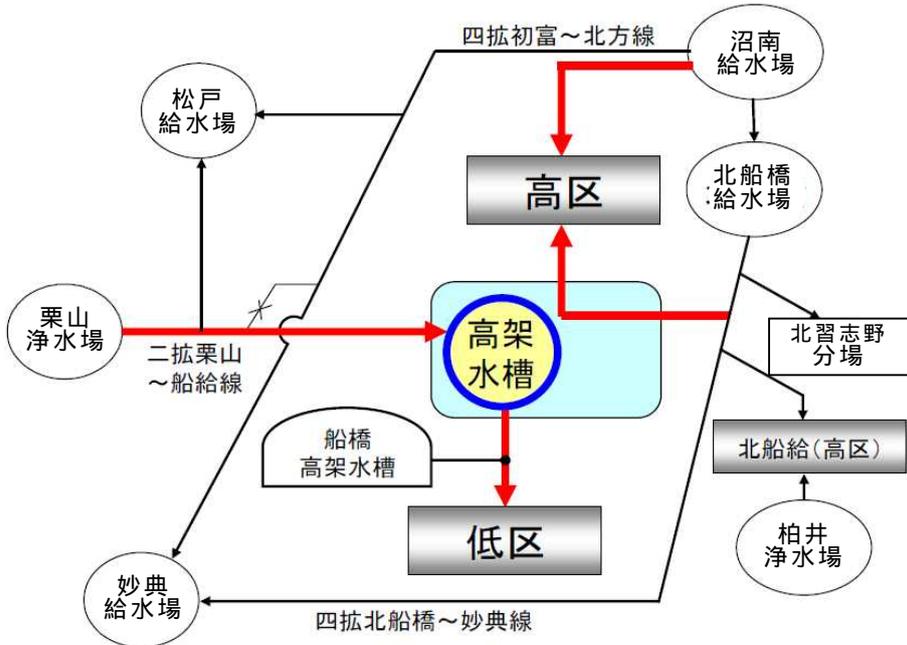
内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

検討形態

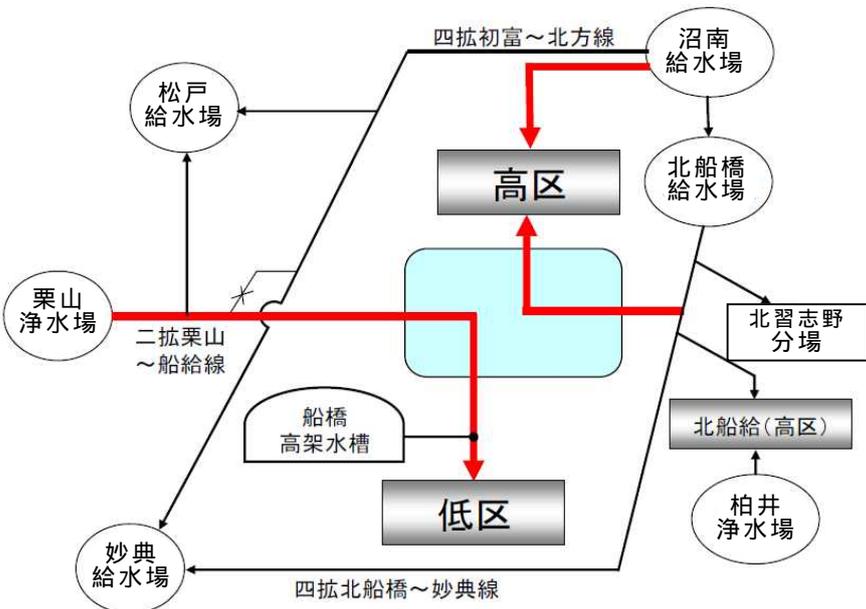
現有施設形態を維持する更新方式  
【ケース1】



低区↓高架水槽／高区↓直接配水  
【ケース2】



低区↓直接配水／高区↓直接配水  
【ケース3】



基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	6
主要施策	安定給水の確保	担当課	計画課
事業（施策）名	栗山浄水場老朽化更新工事		
事業概要	老朽化の著しい栗山浄水場について、老朽度診断調査をもとに土木構造物の改修や建築物の耐震化、電気・機械設備の更新を計画的に実施します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） ・次亜塩素酸ナトリウム注入設備更新並びに注入棟建築工事を実施しました。 ・旧管理本館の作業棟及び管理棟並びに南・北操作室の4棟について耐震診断を実施しました。 ・今後の整備方針について検討し、施設の更新規模等に係る基本的な方針を決定しました。 （5か年の事業費（計画）：2,101,200千円、5か年の事業費（実績）：366,405千円）		内部評価	
			a : 適合している b : 十分とはいえない 前年度評価 a	
達 成 状 況	達成指標	事業進捗率（事業費ベース） 施設の更新規模等に係る基本計画及び実施計画の検討状況	内部評価	
	達成目標	100%（平成22年度末） 施設の更新規模等に係る基本的な方針の決定	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない 前年度評価 b	
	達成実績	17%（平成22年度末） 施設の更新規模等に係る基本的な方針を決定		
	（評価結果の説明・分析） ・次亜塩素酸ナトリウム注入設備更新並びに注入棟建築工事を実施しました。 ・旧管理本館の作業棟及び管理棟並びに南・北操作室の4棟について耐震診断を実施しました。 ・第一次拡張施設及び第二次拡張施設の効率的な将来を見据えた整備計画の作成を決定しました。 ・今後の整備方針について検討し、施設の更新規模等に係る基本的な方針を決定しました。			
前年度評価				
成 果	成果指標	浄水場等施設耐震化率（耐震化施設数 / 浄水場等全施設数） 経年化設備率 （法定耐用年数を超えている電気・機械設備数 / 電気・機械設備の総数）	内部評価	
	成果目標	94.7%（平成22年度末） 57%以下（平成22年度末）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない 前年度評価 b	
	成果実績	94.5%（平成22年度末） 65.0%（平成22年度末）		
	（評価結果の説明・分析） 浄・給水場の設備更新については、事業費の平準化等を考慮し計画的に実施してきた中で、栗山浄水場は将来を見据えた施設全体の整備方針の検討が必要となり、予定していた設備更新の規模を縮小することとしたため、栗山浄水場のみでは浄・給水場全体の経年化設備率の数値に貢献しませんでした。他の施設において更新事業を進めており、全体としては、安定給水に向けた取組は着実に前進していると考えます。			
前年度評価				
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性） 栗山浄水場の更新については、第一次拡張期に築造された浄水施設をおよそ10年後に廃止（代替施設をちば野菊の里浄水場に増設）し、第二次拡張期に築造された施設を現地で更新する方針としたため、更新事業は規模を縮小して行いました。 今後は、速やかに実施計画を策定し、耐震診断で耐震性能を満たしていないことが判明した作業棟の耐震化も併せた形で施設更新を行っていきます。		内部評価	
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他 前年度評価 c	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	7
主要施策	安定給水の確保	担当課	浄水課
事業（施策）名	浄水場等設備更新工事		
事業概要	安定給水の確保のため、平成16、17年度に実施した老朽度診断調査結果をもとに、老朽化している浄・給水場の電気・機械等の設備を効率的に順次更新します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 5か年で計画していた23件の更新工事のうち、柏井浄水場中央監視設備、ポンプ用電気設備等18件の工事を完了しました。  （5か年の事業費（計画）15,108,302千円、5か年の事業費（実績）：13,511,012千円）		内部評価	
			[a]：適合している b：十分とはいえない 前年度評価 a	
達 成 状 況	達成指標	設備更新実績率（更新工事が完了した設備数 / 中期経営計画内での更新工事予定設備数）	内部評価	
	達成目標	100%	a：達成している [b]：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない 前年度評価 b	
	達成実績	78%		
	（評価結果の説明・分析） 達成実績としては78%となりましたが、残る5件のうち北総浄水場中央監視設備など4件は工期が伸びたために平成23年度完了予定となっているものであり、概ね達成しているものと考えます。 なお、未着手となった成田給水場の更新工事は、ポンプ容量や電気室の設置等検討を要したため、23年度から実施します。			
成 果	成果指標	経年化設備率（法定耐用年数を超えている電気・機械設備数 / 電気・機械設備の総数）	内部評価	
	成果目標	57%以下	a：成果が出ている [b]：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない 前年度評価 b	
	成果実績	65%		
	（評価結果の説明・分析） 経年化設備率は65%となり目標には達しませんでした。これは、法定耐用年数を超えてもすぐ更新するのではなく、日頃の綿密な点検整備により設備を良好な状態に維持しながら運転していることによるものです。設備の更新工事には多額の費用がかかることから、設備の寿命を的確に見極めながら計画的、効率的に更新を実施しているところであり、事業の成果は概ね得られているものと考えます。			
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 浄・給水場等の設備更新工事においては、給水能力を維持しながら施工するため、電力会社や施工業者など、関係機関との調整事項が多く、かつ、施設能力を制御しながら行い、状況に応じて随時工程を調整する必要があります。 設備寿命の的確な見極めによる計画的な更新は、安定給水を持続的に確保する上で重要な事業であるため、未着手で残った成田給水場の更新工事を含め、引き続き、安全性・効率性・経済性を考慮して計画的に実施します。		内部評価	
			[a]：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他 前年度評価 a	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

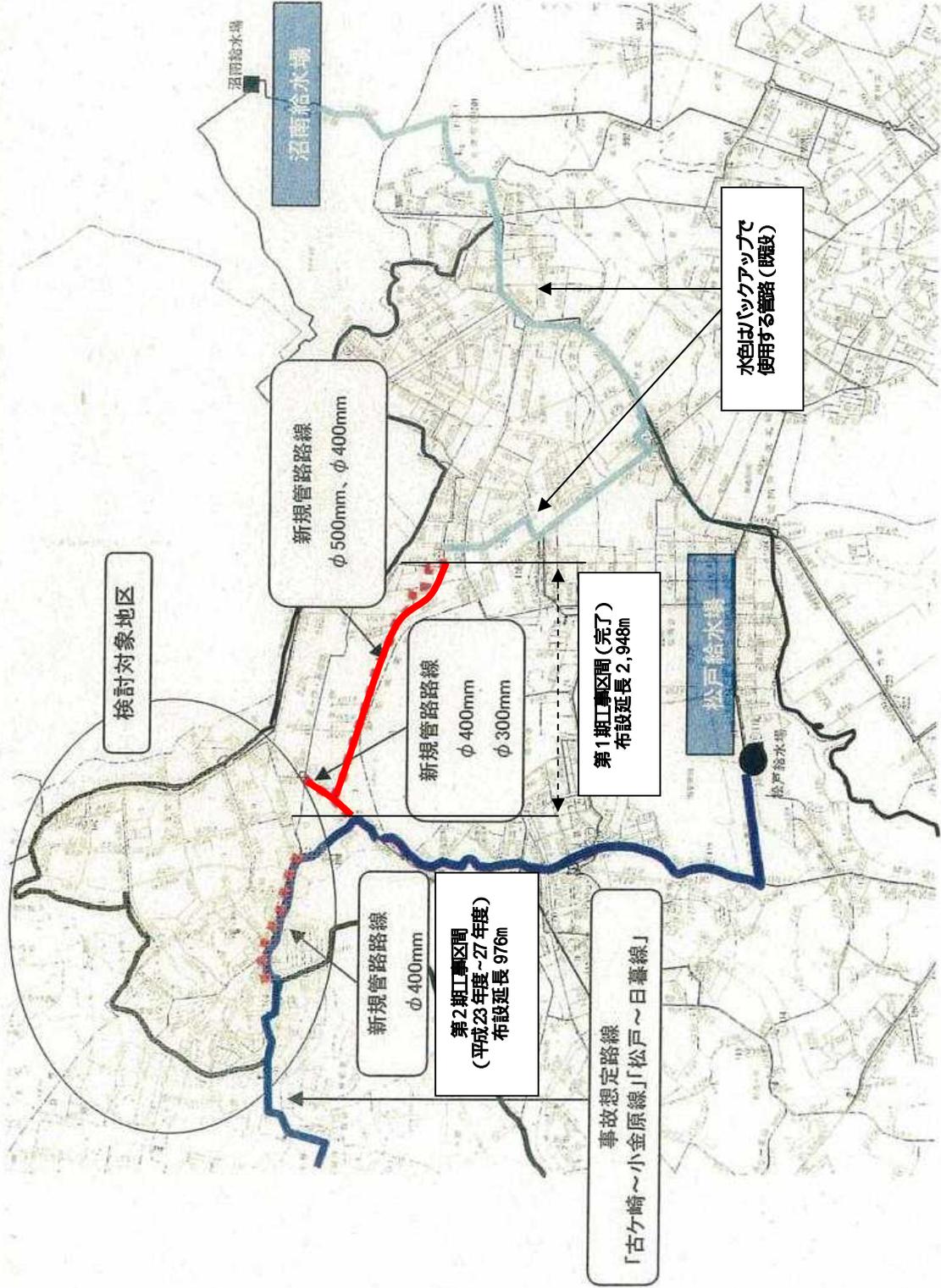
基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	8
主要施策	安定給水の確保	担当課	給水課
事業（施策）名	八ヶ崎～五香六実線布設工事		
事業概要	住宅地の多い松戸市八ヶ崎及び小金原地区には、沼南給水場から松戸給水場を經由し、さらに松戸～日暮線及び古ヶ崎～小金原線を通じて給水しています。 これらの管路は単一路線であり、事故等の緊急時には両地区が断・減水となるおそれがあることから、同市八ヶ崎から五香六実までの約4キロメートルの間に配水管を新たに布設して複線化することにより、安定給水体制の強化を図ります。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 松戸市八ヶ崎5丁目地先から松戸市五香2丁目地先までの配水管布設工事を実施しました。		内部評価	
	（5か年の事業費（計画）：1,611,974千円、5か年の事業費（実績）：1,152,722千円）		前年度評価	a
達成状況	達成指標	事業進捗率（配水管布設延長 / 計画総延長）	内部評価	
	達成目標	74%（第1期分（平成18年度～22年度）完了まで）	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない	
	達成実績	75%（第1期分）		
	（評価結果の説明・分析） 第1期分として予定していた工事は全て完了しました。（布設延長2,948メートル） なお、事業開始後にルート変更で計画総延長が変更（4,123メートル 3,924メートル）になり、達成実績は75%となりました。			
成果	成果指標	緊急時安定給水度（バックアップ可能区域の人口）	内部評価	
	成果目標	松戸市八ヶ崎・小金原・金ヶ作 102,000人（平成24年度まで）	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない	
	成果実績			
	（評価結果の説明・分析） 本事業は計画路線全体の整備によって実効成果を生じるものですが、第1期分の工事がほぼ順調に進捗したことを踏まえ、概ね成果が現れつつあるものと考えます。			
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 本事業は、平成24年度の完了を目標に布設工事を進めてきましたが、第2期分のルートについて周辺住民の同意が得られないことにより変更が生じたため、調査・設計業務委託を含めて26年度まで事業期間を延伸しました。 今後は、安定給水の一層の確保のため26年度の完了を目標に、引き続き工事を進めま		内部評価	
	す。		前年度評価	a

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

整理番号 8 八ヶ崎～五香六実線布設工事

図 1 新規管路整備計画路線概要図



基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	10
主要施策	安定給水の確保	担当課	給水課
事業（施策）名	配水区域の細分化		
事業概要	県営水道の給水エリアには、浄・給水場の系統別に33の配水区域が設定されています。 本事業は、これらの配水区域をベースに、区域内の人口や地盤の高低差を考慮して更に区域を細分化し、より小規模な配水ブロックを形成するものです。 この細分化作業は、送・配水管の要所に設置されている仕切弁（バルブ）を閉じることなどによって行うため、細分化後においては、隣接する配水ブロックとの間が、常時遮断される状態が作り出されます。 本事業の実施により、配水ブロックごとの日常の施設管理や塩素管理が容易になり、安定給水やおいしい水の供給に貢献するほか、地震等の災害時においては断水等の影響範囲を縮小することができ、被災後の復旧も期間を短縮することが可能となります。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 33区域（平成17年度末時点）から、新たに29区域（千葉水道事務所管内で14区域、船橋水道事務所管内で8区域、市川水道事務所管内で7区域）の細分化を実施し、区域形成累計数を62区域としました。 （5か年の事業費（計画）：43,660千円、5か年の事業費（実績）：279,530千円）		内部評価	
			a：適合している b：十分とはいえない 前年度評価 a	
達 成 状 況	達成指標	配水区域の細分化（区域数）	内部評価	
	達成目標	62区域（平成21年度）	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない 前年度評価 a	
	達成実績	62区域（平成21年度）		
	（評価結果の説明・分析） 予定した29区域（千葉水道事務所管内で14区域、船橋水道事務所管内で8区域、市川水道事務所管内で7区域）の細分化を実施し、目標である62区域を平成21年度に達成しました。			
成 果	成果指標	浄・給水場の塩素注入量低減化実施数 非常時において断水等の影響を受ける1区域あたり給水人口 （給水人口 / 区域数）	内部評価	
	成果目標	全浄・給水場19箇所（平成21年度） 約46,000人以下（20年度給水人口290万人 / 62区域）（平成21年度）	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない 前年度評価 a	
	成果実績	全浄・給水場19箇所（平成21年度） 約46,000人（平成21年度）		
	（評価結果の説明・分析） 配水ブロックを細分化するとともに、塩素注入量低減化を19箇所の全浄・給水場について実施しました。また、ブロック単位の水量・水圧・塩素管理が容易となり、災害時における断水等の影響範囲の縮小も可能となりました。なお、非常時において断水等の影響を受ける1区域あたりの平均人口は、平成17年度末時点の約85,000人（17年度給水人口281万人 / 33区域）から約46,000人（20年度給水人口290万人 / 62区域）となりました。			
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 効率的な管路管理を実施するため、配水管理テレメータシステム（流量計及び水圧計）について「配水管理テレメータ整備実施計画書」を策定し、これを基に平成24～26年度に整備（更新）の実施設設計委託を行い、26年度から整備（更新）工事を実施します。 また、東日本大震災での対応を踏まえて、更なる細分化の必要性について検討を行います。		内部評価	
			a：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他 前年度評価 a	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します。	整理番号	11
主要施策	安定給水の確保	担当課	浄水課
事業（施策）名	水運用センター（システム）の設置		
事業概要	水源から蛇口に至る水道システム全体の水量等の管理情報をもとに、毎日の水需要予測を行い的確な浄水量や配水量等の情報を浄・給水場に提供し、水運用調整を一元的に行う水運用センター（システム）を設置します。 これにより水処理や送水に係るコストの低減につなげます。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 水運用システムに必要な4つのプログラム（水需要予測プログラム・水運用計画支援プログラム・配水池水位予測プログラム・緊急時支援プログラム）を開発し、これにより水運用システムを完成させました。 システム完成後は、送水コストの低減に向け、浄水量や配水量等の水運用情報を浄・給水場に提供しました。 （5か年の事業費（計画）：220,206千円、5か年の事業費（実績）：215,250千円）		内部評価	
			a：適合している b：十分とはいえない 前年度評価 -	
達 成 状 況	達成指標	水運用センター（システム）の設置	内部評価	
	達成目標	平成19年度設置	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない	
	達成実績	平成19年度設置完了	前年度評価 -	
	（評価結果の説明・分析） 達成指標年度内に設置完了しました。			
成 果	成果指標	送水コスト縮減額	内部評価	
	成果目標	5,700千円（5か年累計）	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない	
	成果実績	3,310千円（5か年累計）	前年度評価 -	
	（評価結果の説明・分析） 給水場配水池の有効利用（配水池運用範囲の拡大：貯水量 90～60% 93～57%）により、安価な夜間電力（22時～翌8時）を利用した送水を行えるように水運用情報の提供を行いました。 運用に伴うコストの縮減効果は目標に達しませんでした。情報の共有化や効率的な運営が可能となったことにより、東日本大震災において、浦安地区の漏水による水需要の増加へ対応できたことなど、システムの成果が表れていると考えます。			
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） システムの改良等を実施し、更なるシステムの充実・安定を図ります。 併せて、より細やかな水運用情報の提供により、送水コストの低減を図ります。 また、震災の影響による電力逼迫時の水運用調整にもシステムを活用し、安定給水を確保します。 （平成19年度事業完了）		内部評価	
			a：計画どおり継続（維持） b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他 前年度評価 -	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します。	整理番号	12 - 2
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	計画課
事業（施策）名	残留塩素の低減化		
事業概要	<p>浄・給水場への塩素多点注入方式 導入の基礎調査、水温別の残留塩素管理方法の検討、配水区域の細分化に伴う減塩素対策など、末端蛇口における残留塩素の低減化を図るための事業に取り組みます。</p> <p>塩素は時間とともに消失するため、末端蛇口（お客様）までの距離・到達時間の違いを考慮して塩素を注入することにより、蛇口での塩素濃度を極力低く抑えられるように調節する方式</p>		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性）		内部評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩素多点注入方式導入の基礎調査を実施し、実施計画書を策定しました。</li> <li>・水温別の残留塩素管理方法を3段階から4段階に改善し、きめ細かい管理にしました。</li> <li>・配水区域を細分化した系統において、残留塩素の低減化試験を実施し末端蛇口における塩素濃度を低減しました。</li> </ul> （5か年の事業費（計画）：77,650千円、5か年の事業費（実績）：62,002千円）		a : 適合している b : 十分とはいえない	
達 成 状 況	達成指標	残留塩素の低減化試験（配水区域実施率）	内部評価	
	達成目標	100%（62ブロック/62ブロック 平成22年度まで）	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない	
	達成実績	100%（平成22年度）		
	（評価結果の説明・分析） 配水区域の細分化にあわせて、平成19年度は6ブロック、20年度は15ブロック、21年度は19ブロック、22年度は22ブロックの計62ブロックの残留塩素低減化試験を実施し、目標を達成しました。			
前年度評価		a		
成 果	成果指標	インターネットモニターへのアンケート調査 （水道水の塩素臭：「感じない+ほとんど感じない」の回答割合）	内部評価	
	成果目標	60%（平成22年度）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
	成果実績	66%（平成22年度）		
	（評価結果の説明・分析） 平成22年度のアンケート調査結果は、「塩素臭を感じない」+「ほとんど感じない」の回答割合が66.0%（12.7%+53.3%）となり、18年度の53.0%（8.5%+44.5%）と比較して向上しており、目標を達成しました。			
前年度評価		a		
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 残留塩素の低減化対策は、においの少ないおいしい水づくりを進める上できわめて効果的であり、更なる残留塩素の低減化を目指し継続して取り組んでいきます。		内部評価	
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他	
前年度評価		a		

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

## 整理番号 12 - 2 おいしい水づくり計画の推進

平成 22 年度 インターネットモニターアンケートの実施内容（モニター委嘱者数：600人）

	実施時期	調査内容
第 1 回	平成 22 年 7 月	安全でおいしい水（回答者数：448 名）
第 2 回	平成 22 年 8 月	ホームページ・ペットボトル水・首都圏水道水キャンペーン ポスター・安全でおいしい水（回答者数：455 名）
第 3 回	平成 22 年 11 月	接客対応の満足度・水道局のイメージ・安全でおいしい水（回 答者数：469 名）
第 4 回	平成 23 年 2 月	安全でおいしい水・県水だより・水道水の満足度（回答者数： 456 名）

### インターネットモニターアンケート

塩素のにおい	H22 年度第 1 回 ( H22.7 )	H18 年度第 1 回 ( H18.6 )	差 ( )
感じる	7.8%	14.4%	6.6 ポイント
少し感じる	26.1%	32.7%	6.6 ポイント
ほとんど感じない	53.3%	44.5%	8.8 ポイント
感じない	12.7%	8.5%	4.2 ポイント

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	12 - 3
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	給水課
事業（施策）名	管路の維持管理強化		
事業概要	管路内の水質を適正に維持するため、計画的な管路内洗浄を実施するとともに、赤濁水などの異常発生時等には迅速、適切に対応します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 計画的な管路内洗浄に加え、突発的に発生する赤濁水への対応や配水区域の細分化に伴う処置として、随時、管路内洗浄等を実施しました。		内部評価		
	（5か年の事業費（計画）：446,034千円、5か年の事業費（実績）：426,017千円）		a : 適合している b : 十分とはいえない	前年度評価	a
達 成 状 況	達成指標	送・配水管内の洗浄延長	内部評価		
	達成目標	5,000km（5か年累計）	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない		
	達成実績	4,582km（5か年累計）	前年度評価		
	（評価結果の説明・分析） 住宅密集地での夜間作業には、作業音等に細心の注意を払ったことから、目標には届かなかったものの、目標を概ね達成しました。（達成率91.6%）		b		
成 果	成果指標	水質苦情件数	内部評価		
	成果目標	270件以下（平成22年度）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない		
	成果実績	261件（平成22年度）	前年度評価		
	（評価結果の説明・分析） お客様からの水質苦情は、そのほとんどが赤濁水の発生によるものですが、計画的な管路内洗浄の結果、苦情件数は平成17年度の401件から261件に減少（35%減）しており、事業の成果が表れているものと考えます。		a		
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 総延長8,600キロメートルを超える長大な送配水管の適切な維持管理は、お客様へ安全で良質な水を確実に送り届けるために欠くことのできない業務であり、おいしい水づくり計画の根幹を支えるものです。 今後とも、計画的な管路内洗浄を実施するとともに、突発的な赤濁水の発生等に迅速かつ適切に対応します。		内部評価		
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他 前年度評価		

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します。	整理番号	12 - 4
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	給水課
事業（施策）名	貯水槽水道の適正管理と直結給水の推進		
事業概要	お客様の貯水槽水道に対する衛生面での不安を解消し、より安全でおいしい水の供給を図るため、適正管理の啓発、指導を行う貯水槽水道巡回サービスを実施します。 併せて、中高層の建物に対し、貯水槽水道から直結給水方式への転換を促進するため、積極的なPRを行います。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 実施計画に基づき、貯水槽水道の巡回サービスを実施するとともにパンフレット等による直結給水方式のPRを積極的に行い、平成22年度までに約21,000箇所ある貯水槽水道を一巡しました。  （5か年の事業費（計画）：265,000千円、5か年の事業費（実績）：190,746千円）		内部評価	
			a : 適合している b : 十分とはいえない  前年度評価 a	
達 成 状 況	達成指標	貯水槽水道巡回サービス実施率（貯水槽水道指導件数 専用水道を除く貯水槽水道総数）	内部評価	
	達成目標	100%	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない  前年度評価 a	
	達成実績	95.7%		
	（評価結果の説明・分析） 貯水槽水道のチェックリストやおいしい水づくり計画のリーフレット等を同封した実施通知は、一部連絡のつかない所有者もいましたが、ほぼ全ての貯水槽水道設置者へ送付しました。			
成 果	成果指標	直結給水率（直結給水件数/給水件数）	内部評価	
	成果目標	64.4%	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない  前年度評価 a	
	成果実績	66.3%		
	（評価結果の説明・分析） 直結給水に関するパンフレットの配布や事務所における相談窓口による積極的な普及啓発の結果、目標指標を1.9%上回る結果となりました。			
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 平成22年度までの巡回サービスの結果、10立方メートルを超える貯水槽水道は法規制により適正に管理されており、管理不備の懸念がないことから、今後は法で規制されていない10立方メートル以下の貯水槽水道を対象に巡回サービスを実施します。 また、東日本大震災を踏まえ、避難所となる施設の貯水槽の貯留能力等を調査し、災害対応における資料とします。		内部評価	
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他  前年度評価 a	

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	12 - 5 - 1
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	計画課
事業（施策）名	高度浄水処理の導入（ちば野菊の里浄水場）		
事業概要	より良質なおいしい水を浄水場から供給するため、オゾンと生物活性炭による高度浄水処理施設を「ちば野菊の里浄水場」に整備するとともに、その高度浄水処理水の一部を近接する栗山浄水場を経由して広範囲に配水することにより水質の向上を図ります。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） ・ちば野菊の里浄水場に高度浄水処理を導入しました。 ・高度浄水処理水の一部を栗山浄水場を経由して広範囲に配水しました。		内部評価	
	（5か年の事業費（計画）：1,785,916千円、5か年の事業費（実績）：1,774,297千円）		a : 適合している b : 十分とはいえない	
達 成 状 況	達成指標	高度浄水処理水利用率 （高度浄水処理水（ブレンド含む）給水人口 / 全給水人口）	内部評価	
	達成目標	80%（平成19年度まで）	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない	
	達成実績	83%（平成19年度）		
	（評価結果の説明・分析） 平成19年10月からちば野菊の里浄水場を稼働し、高度浄水処理利用率80%以上を達成しました。			
前年度評価		a		
成 果	成果指標	インターネットモニターへのアンケート調査結果 （飲み水としての満足度：「満足している」+「どちらかといえば満足している」の回答割合）	内部評価	
	成果目標	50.0%（平成22年度）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
	成果実績	55.6%（平成22年度）		
	（評価結果の説明・分析） 調査の結果、目標以上の結果が得られました。これは、ちば野菊の里浄水場の高度浄水処理水の一部を栗山浄水場を経由して広範囲に供給したことが一因となっているものと考えます。			
前年度評価		a		
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 安全で良質なおいしい水の供給には高度処理が有用であることから、「千葉県水道局中期経営計画2011」において、柏井浄水場西側施設における高度浄水処理施設の導入に取り組んでいきます。		内部評価	
		a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他		
前年度評価		a		

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

整理番号 12 - 5 - 1 高度浄水処理の導入（ちば野菊の里浄水場）

平成 22 年度 インターネットモニターアンケートの実施内容（モニター委嘱者数：600人）

	実施時期	調査内容
第 1 回	平成 22 年 7 月	安全でおいしい水（回答者数：448 名）
第 2 回	平成 22 年 8 月	ホームページ・ペットボトル水・首都圏水道水キャンペーン ポスター・安全でおいしい水（回答者数：455 名）
第 3 回	平成 22 年 11 月	接客対応の満足度・水道局のイメージ・安全でおいしい水（回 答者数：469 名）
第 4 回	平成 23 年 2 月	安全でおいしい水・県水だより・水道水の満足度（回答者数： 456 名）

第 1 回アンケートの結果

飲み水としての満足度	H22 年度第 1 回 (H22.7)(%)	H21 年度第 1 回 (H21.6)(%)	差( - ) (%)
A 満足している	10.7	12.0	1.3
B どちらかといえば満足している	44.9	42.9	+2.0
(A + B)	55.6	54.9	+0.7
どちらかといえば不満である	30.4	30.6	0.2
不満である	9.2	9.2	0
どちらともいえない	4.9	5.3	0.4

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	12-5-2
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	計画課 浄水課
事業（施策）名	高度浄水処理の導入（調査研究）		
事業概要	北総浄水場及び柏井浄水場西側施設の原水処理の安定化と浄水水質の更なる向上を図るため、オゾンと生物活性炭を使用した高度浄水処理のプラント実験による調査研究を行います。 また、実験結果をもとに、既設浄水場へ高度浄水処理を導入する場合の最適な処理システム等の検討を行い、浄水場への導入順位についても検討します。		

5か年間の取組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 高濃度の臭気物質の流入に有効な高度浄水処理の導入にあたり、最適な処理方式を検討しました。学識経験者からなる「利根川系高度浄水処理実験に係る検討会」を設置し、意見を求めながら実験を行い、施設の配備計画・予算を含めて方向性を示しました。  （5か年の事業費（計画）329,703千円、5か年の事業費（実績）272,475千円）		内部評価		
			a : 適合している b : 十分とはいえない  前年度評価 a		
達成状況	達成指標	高度浄水処理に係る基本方針、基本計画案の作成状況		内部評価	
	達成目標	基本方針、基本計画案の作成			
	達成実績	基本方針、基本計画案を作成		a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない	
	（評価結果の説明・分析） 実験結果報告書を取りまとめ、それを基に技術的な検討を行うとともに、財政見込み等を考慮し、高度浄水処理の導入順位を整理するなどした基本方針を取りまとめました。 また、同時に各浄水場の特性を基に施設配置及び費用等の比較検討を行いました。 ・導入順位： 柏井浄水場西側施設 北総浄水場		前年度評価 a		
成果	成果指標	基本方針、基本計画案への実験結果の反映度		内部評価	
	成果目標	基本方針、基本計画案に反映させうる実験結果の取得			
	成果実績	実験結果を反映させた基本方針、基本計画案を作成		a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない	
	（評価結果の説明・分析） 様々な処理条件による実験から基礎的なデータを取得し、臭気物質の除去とオゾンによる消毒副生成物である臭素酸の生成抑制を両立する方法を取り入れる等、最適な処理方式を選定しました。 その結果、水質の良好でない利根川系原水について有効な基本計画案が作成されました。		前年度評価 b		
今後の進め方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 全浄水場への導入を目指し、柏井浄水場西側施設及び北総浄水場への高度浄水処理施設導入計画を進めます。  （平成22年度事業完了）		内部評価		
			a : 計画どおり継続 b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他  前年度評価 a		

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める	
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める	

総括評価調書（平成18年度～平成22年度）

様式 - 1

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	12 - 6
主要施策	安全で良質な水の供給	担当課	給水課
事業（施策）名	鉛給水管の更新		
事業概要	鉛水質基準の強化に対応するとともに安全で良質な水の供給を図るため、配水管の分岐部から宅地内の水道メーター周りでの連続した鉛給水管を、ポリエチレン管に更新する鉛給水管更新工事を実施します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） ・鉛給水管の単独更新工事として、109,509本の更新を実施しました。 ・配水管布設替工事等に付帯する更新についても、併せて実施しました。  （5か年の事業費（計画）：39,825,049千円、5か年の事業費（実績）：31,831,765千円）		内部評価
			a : 適合している b : 十分とはいえない  前年度評価 a
達 成 状 況	達成指標	鉛給水管単独更新本数	内部評価
	達成目標	136,644本（5か年累計）	a : 達成している b : 概ね達成している c : 達成していないが進展している d : 進展していない  前年度評価 b
	達成実績	109,509本（5か年累計）	
	（評価結果の説明・分析） お客様の承諾が得られなかった箇所や、道路管理者による掘削規制があった箇所、道路工事等との調整を要する箇所などがあったため、更新実績は109,509本となりました。 （達成率80.1%）		
成 果	成果指標	鉛給水管更新率（鉛給水管更新累計本数（平成元年度以降）／平成元年度（使用を取りやめた時点）の鉛給水管残存本数） 宅地内自然漏水件数	内部評価
	成果目標	100%（平成22年度末） 360件以下（平成22年度）	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない  前年度評価 a
	成果実績	98.3%（平成22年度末） 373件（平成22年度）	
	（評価結果の説明・分析） 平成元年での鉛管使用件数413,397件のうち、単独更新と配水管布設替工事等に付帯した更新の、合わせて406,547件の更新が完了した結果、更新率は98.3%となり、目標としていた成果が概ね得られました。 宅地内自然漏水件数については、目標件数を達成できなかったものの、給水管の耐久性が強化された結果、17年度の990件から373件に大きく減少（62%減）しており、事業の成果が表れているものと考えます。		
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 平成22年度末で計画的な鉛給水管更新事業は終了しましたが、残存する6,850本の鉛給水管について道路管理者や他企業との調整を図り、次期5か年（23～27年度）内での更新率100%を目標とし、引き続き更新工事を実施します。		内部評価
			a : 計画どおり継続（維持） b : 事業を拡大し継続 c : 事業を縮小し継続 d : 事業休止または廃止 e : その他  前年度評価 a

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

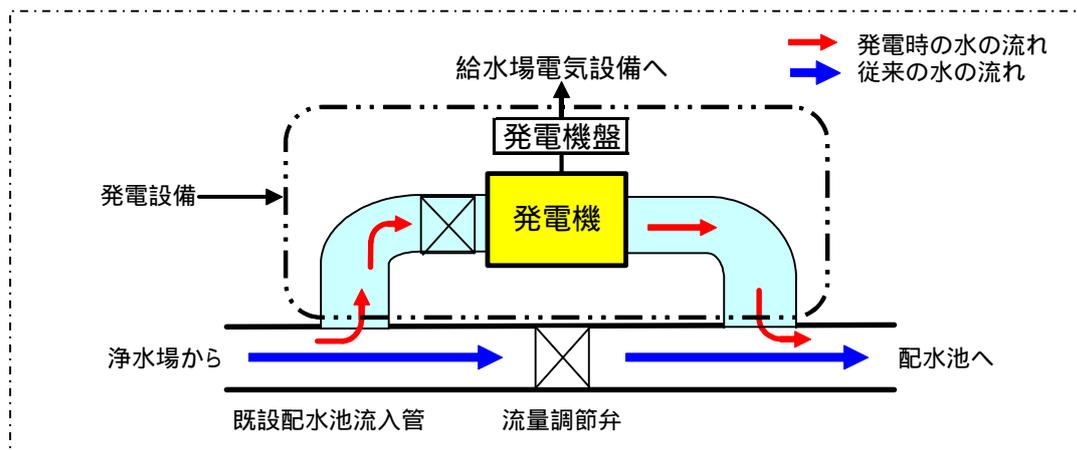


## マイクロ水力発電について

県水道局では、浄水場から給水場へ送る水の圧力と流量のエネルギーを利用した「マイクロ水力発電設備」を設置し、平成20年度から運転を開始しました。

再生可能エネルギーである水力利用により二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を抑制することで地球温暖化防止に貢献するものです。2箇所、平成22年度に約308万キロワットアワー発電し、約1,180トンの二酸化炭素の削減に貢献しています。

### 1 マイクロ水力発電のイメージ

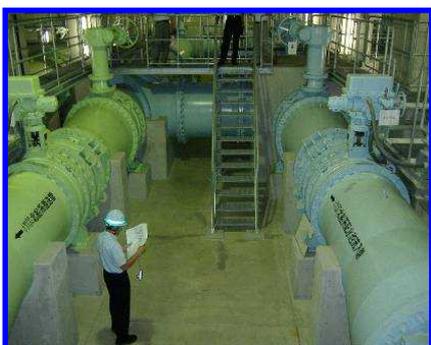


### 2 施設の写真

幕張発電所（幕張給水場）



妙典発電所（妙典給水場）



基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	14
主要施策	環境保全対策の推進	担当課	浄水課
事業（施策）名	省エネルギー推進		
事業概要	千葉県水道局環境保全計画に基づき、浄水場の設備更新事業では省エネルギー機器の導入を進めていきます。また、浄水場及び給水場の照明機器を省エネルギータイプへ更新します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 柏井浄水場オゾン設備を省エネ型に更新しました。また、柏井浄水場東側排水処理施設の污泥処理では、従来の遠心分離装置から省エネ型污泥濃縮装置へ更新しました。他の施設においても、設備更新にあたっては省エネ機器、省エネタイプ照明機器を採用しました。 遠心分離装置：污泥の脱水を洗濯機のように行うため、濃縮に大きな動力を要する。 省エネ型污泥濃縮装置：サイフォンの原理を利用したろ過方法により、污泥の濃縮にほとんど動力を要しない。 （事業費は、更新工事の事業として計上）		内部評価	
			a：適合している b：十分とはいえない	
		前年度評価		a
達 成 状 況	達成指標	省エネ機器・省エネタイプ機器の設置状況		
	達成目標	柏井浄水場において省エネ型オゾン設備への更新及び省エネ型污泥濃縮装置への更新 電気設備に省エネタイプ機器を採用		
	達成実績	省エネ型オゾン発生器2台へ更新、省エネ型污泥濃縮装置6台へ更新 柏井浄水場第二誉田系、海浜系、北船橋系等ポンプ用の電気設備を省エネタイプへ更新		
	（評価結果の説明・分析） 柏井浄水場においてオゾン発生器4台を省エネ型オゾン発生器2台へ更新、東側排水処理施設で遠心分離装置9台を省エネ型污泥濃縮装置6台へ更新が完了しました。 柏井浄水場等のポンプ用電気設備を省エネタイプへ更新しました。		内部評価	
		a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない		
		前年度評価		a
成 果	成果指標	環境に負荷のかかる購入電力の削減率（削減電力量 / 平均購入電力量）		
	成果目標	2.9%以上（平成22年度）		
	成果実績	2.9%（平成22年度）		
	（評価結果の説明・分析） 柏井浄水場のオゾン発生装置更新、省エネ型污泥濃縮装置の設置及び海浜系等のポンプ用電気設備更新、また誉田給水場のポンプ用電気設備、沼南給水場中央計算機設備更新等により、平成12年度から16年度の全浄水場と給水場の年平均購入電力1億6,067万kWhの2.9%にあたる461万kWhを削減しました。		内部評価	
		a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない		
		前年度評価		a
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 引き続き、設備更新に合わせて省エネルギー機器の導入を推進します。		内部評価	
			a：計画どおり継続 b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他	
		前年度評価		a

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める

基本目標	より良質なおいしい水をいつでも安心して利用できる水道を目指します	整理番号	15
主要施策	環境保全対策の推進	担当課	浄水課 計画課
事業（施策）名	再資源化の推進		
事業概要	浄水処理工程で生じる浄水場発生土や配水管設工事等で発生した建設発生土について、その発生抑制と再資源化を図り、環境対策を推進します。		

5 か 年 間 の 取 組	（平成18年度～平成22年度における取組及び上位施策・目標への適合性） 浄水場発生土については企業庁（工業用水部）と研究を進め、平成21年度に700トン、22年度に900トンを緑化培養土原料としました。その他も全てセメント原料とし、100%有効利用しました。 建設発生土については、埋立用土として再資源化を促進しました。 （5か年の事業費（計画）：2,150,000千円、5か年の事業費（実績）：2,018,001千円）		内部評価	
			a：適合している b：十分とはいえない	
達 成 状 況	達成指標	緑化培養土の事業化等の促進状況 建設発生土の再資源化の促進状況	内部評価	
	達成目標	緑化培養土の事業化 建設発生土の再資源化		
	達成実績	緑化培養土の一部事業化を達成 再資源化を促進	a：達成している b：概ね達成している c：達成していないが進展している d：進展していない	
	（評価結果の説明・分析） 浄水場発生土を原料とした緑化培養土については、企業庁（工業用水部）と共同で研究を進めた結果、平成21年度から一部事業化を開始しました。 建設発生土は、千葉県建設リサイクル推進計画に基づき、埋立用土として再資源化を促進しました。		前年度評価	
成 果	成果指標	浄水場発生土有効利用率 建設発生土再資源化率	内部評価	
	成果目標	98%以上（平成22年度） 90%以上（平成22年度）		
	成果実績	100%（平成22年度） 77.8%（平成22年度）	a：成果が出ている b：概ね成果が出ている c：成果が小さい d：成果が出ていない	
	（評価結果の説明・分析） 浄水場発生土については、セメント原料用と緑化培養土用を合わせて、平成18年度以降、有効利用率100%となりました。 建設発生土については、一部、条件的に再資源化に適さないものがあり、実績は77.8%となりましたが、21年度比で5%増となり、概ね成果が出ていると考えます。		前年度評価	
今 後 の 進 め 方	（達成状況及び成果を踏まえた今後の進め方（取組の方向性）） 浄水場発生土については、引き続き緑化培養土及びセメント原料として100%再資源化を目指します。また、浄水処理方法の研究を踏まえ、浄水薬品等の注入量をできる限り減らし、浄水場発生土の発生量の抑制に努めます。 建設発生土についても、引き続き再資源化を促進します。また、建設発生土の発生量が少ない工法をできる限り用い、発生量の抑制に努めます。		内部評価	
			a：計画どおり継続 b：事業を拡大し継続 c：事業を縮小し継続 d：事業休止または廃止 e：その他	
		前年度評価		a

内部評価機関 （政策調整会議） における評価	（総合的な意見等） 自己評価を妥当と認める	
	（事業の方向性：事業の継続・見直し・休止等の所見） 自己評価を妥当と認める	